



記事、見出しコツ学ぶ

池田中壁新聞制作向け講座

池田町池田中で20日、生徒33人が受講し、校外読む人に伝わる新聞記事の書き方や見出しの付け方を生徒が学ぶ出前講座が開かれた。全校



福井新聞を参考に自分たちで制作する壁新聞のレイアウトを考える池田中生20日、同校新聞作りのヒントを探った。同校では6月に1年生は町内、2年生は京都市の名所や観光地を校外学習として巡った。3年生は修学旅行で東京を訪問。生徒全員がそれぞれ学んだことを壁新聞にまとめる。実際の新聞制作の前にノウハウを学ぼうと、福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターを講師に招いた。

インターネットを講師に招いた。徳島さんは各地の地方紙の事例を示しながら「新聞は事実だけでなく、記者や識者の意見や考えが書かれていることも特徴」と説明。記事の基本要素となる「5W1H」(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように)や見出しの役割などについて解説した。生徒らは福井新聞の記事を参考にオリジナルの見出し付けにも挑戦。3年生の森松俊太さんは「読者を引きつけるには、見出しがどれだけ大事かが分かった。これから先輩たちが東京に行ってみたいと思うような新聞を作りたい」と張り切っていた。(高島健)